

きずな

ひょうご
人権ジャーナル

2026

9・10
月号

「普通」って誰のこと？

「らしさ」より、 「その人らしさ」を 大切に



今月の表紙

高齢者世帯のうち、1人暮らしの割合は53.2%。誰もが社会と関わりながら、生きがいを持って暮らし続けられる地域づくりが求められています。
出典：厚生労働省「2025年国民生活基礎調査」

01 男性記者からトランスジェンダー —— P2・3
女性コメンテーターに
映画プロデューサー 谷生 俊美さん

02 高齢者とのコミュニケーション —— P4
一認知症の人に伝わりやすい関わり方—
京都先端科学大学教授 吉村 貴子さん

03 スマート・エイジングのすすめ —— P5
村田アソシエイツ株式会社 代表取締役 村田 裕之さん

「犯罪被害者支援」という言葉を —— P6
知っていますか
ひょうご被害者支援センター 理事 土師 守さん

04 「普通の家族」って、なんだろう —— P7
株式会社ニューキャンパス代表、フェンシング元女子日本代表
杉山 文野さん

05 セクシュアリティの多様性尊重： —— P8
理解からアクションへ
関西学院大学 教授 武田 丈さん

06 性の多様性をめぐる意識の変化と、 —— P9
これからの課題
Like myself 代表 前田 良さん

県内各市町の人権啓発 #03 —— P10
すべての市民が川西市に住んでいてよかったと
思えるまちにするために —川西市の取組—
川西市人権推進多文化共生課

ふれあいサロン —— P11

情報ぶらざ —— P12



ひろげよう
こころのネットワーク



兵庫県・
(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコットはばタン

男性記者から トランスジェンダー 女性コメンテーターに

生放送

「谷生俊美です。男性として日本テレビに入社して、現在はトランスジェンダー女性として映画に向き合って7年目になります…」

2018年10月4日夜11時。私は日本テレビ「news zero」のスタジオでカメラに向かってこう話していました。それは私自身のセクシャリティーについて、日本全国に向けた生放送でのカミングアウトとなりました。同時に、**性的マイノリティーであるトランスジェンダー女性がニュースのレギュラーコメンテーターに就任した瞬間でもあったのです。私は結果的に日本で初めての存在になりました。**そんな私の人生のお話にお付き合いください。

谷生俊美さん
日本テレビ放送網コンテンツ戦略本部

神戸出身です

兵庫県立兵庫高校を卒業後、大学受験に失敗した私は、一浪を経て19歳で大学進学のために上京するまで神戸で育ちました。3歳まで垂水区、以降は北区の住宅地で過ごした幼い頃から「**いつか女の子になりたい**」という思いを秘めたまま、叶えるための進路も、目指すべきロールモデルとなる存在も見出せませんでした。



兵庫高校の卒業アルバムの写真(1991年撮影)

当時、テレビで「ミスターレディ」と呼ばれるトランスジェンダー女性が脚光を浴びており、煌びやかな美しさと女性らしさを兼ね備えた姿に憧れ、どきどきしたことを今もはっきりと覚えています。彼女たちの仕事はいわゆるホステスやショーパブのダンサーで、境遇を聞くと「中学卒業後、男性が好きで家出してゲイバー

に転がり込んだ」とか、「美容やファッション系の専門学校を卒業してショーパブのダンサーに」といったものが多く、自分の人生とは世界が違うのかな、と私は感じていました。東京の国立大学に進学して世界で活躍する仕事がしたい、と夢を描いていたからです。1980年代から90年代は、**トランスジェンダー女性が就ける職業は、いわゆる水商売などの「夜の仕事」が圧倒的でした。**

就職、報道記者として中東へ

大学院を終了後、2000年に日本テレビに入社しました。学生時代、ド派手なメイクと衣装が特徴的なドラッグクイーンとしてクラブイベントでアルバイトしたり、ヨーロッパへバックパッカーとしての貧乏旅行を複数回したり、と様々な模索もしました。ただ、女性に性移行(トランジショニング)して海外でも活躍できる仕事はイメージできませんでした。結果、**「普通に」男性として就活しての社会人生活スタートでした。**

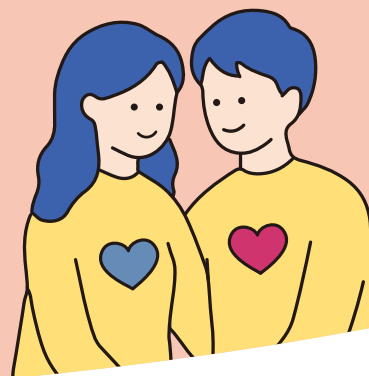
映画プロデューサーになりたいという希望で入社したテレビ局。でも配属は報道局でした。記者として外報部

プロフィール

2000年日本テレビ入社。カイロ支局長など報道記者勤務12年。2012年～2018年「金曜ロードショー」プロデューサー。この頃、本格的なトランスを開始。2018年～2019年「news zero」にニュースコメンテーターとして出演。2018年～2026年映画プロデューサーとして細田守監督『竜とそばかすの姫』などを手がける。2023年、初の著書「パパだけど、ママになりました」(アスコム)を出版。

✓ TO DO 一度きりの人生だから、自分の想いを確認してみる。

谷生さんが「後悔のないように生きよう」と踏み出せたのは、心の奥の想いと向き合ったから。あなたの「本当はこうありたい」も大切な個性のひとつです。まずは自分に問いかけることから始めてみませんか。



や社会部警視庁担当、と目の前の激務を必死に食らいついてこなす日々で、いつしか「女の子になりたい」という希望も心の水面から深く沈んでいったようでした。自分のことを見つめるゆとりが全くない生活でした。

転機は2005年に訪れます。希望も想定もしていなかった中東カイロ支局に支局長として赴任することになったのです。

人はいつ死ぬかわからない

当時の中東は、イラク情勢が泥沼化していたほか、国際テロ組織アルカイダなどによるテロが各地で発生、イスラエルとレバノンのイスラム教組織ヒズボラの戦争などハードな取材が目白押しでした。もちろん中東特派員といえども、テロや戦争ばかりを取材しているわけではありません。ただしそうした現場の取材はどうしても多くなります。



特派員としてパレスチナ自治区・ガザで取材中（2009年撮影）

エジプト東部・紅海沿岸のリゾート地で起きた同時テロ事件を取材し

たときのこと。現場はショッピングモールや欧米系高級ホテルの駐車場などでした。買い物客など数十人が亡くなった現場では、自動車に仕掛けられた爆弾が爆発、道路を挟るように3メートルはあろうかという巨大なクレーターのような穴ができていました。その中や周囲には犠牲になった人たちの黒焦げになった鞆や子どもの小さな靴などが散乱したままで、胸が痛みました。彼らは突然命を奪われる数秒前でさえ、全く死を予期していなかったでしょう。きっとリゾート地での休暇を楽しんでいたに違いありません。そうした人たちの生々しい〈生の痕跡〉を見て、私は痛切に感じたのです。「人はいつ死ぬかわからない」と。当たり前の事実がそれまで感じたことのない現実感を持って腑に落ちた瞬間でした。同時に思いました。だからこそ、「後悔のないように人生を生きなければ」と。その後、戦争や紛争、テロの現場取材を数多くこなす中で、この想いはますます強くなります。

皆さんにお伝えしたいこと

2010年の帰国後、少しずつトランス（移行）を始めつつも、日本での暮らしの現実を前に本格的な移行は無理かも、と思い悩んでいました。でも、翌年起きた東日本大震災を見て決意は固くなりました。相対的に命の「軽い」中

東ではなく、日本でも同じなんだ、と気づいたのです。そして報道局からの異動を機に、理解ある女性上司にも恵まれて会社でも自分らしさを全開で生きようになり、「news zero」へのコメンテーターとしての出演にまでつながったのです。

以上、これは私の体験した道のりです。性的マイノリティー当事者は私のように「見えやすい」存在だけではなく、カミングアウトしていない人を含め、どれだけ少なく見ても100人に数人はいると言われていています。私たちは優遇を求めたりしているのではありません。ただ、「普通に」生きたいだけです。一つの個性として尊重されることがもっと当たり前になることを望んでいます。

著作本紹介

女性として生きることを決めた「パパ」が、「ママ」として贈る最愛のわが子への手紙



『パパだけど、ママになりました』

2023年8月31日
アスコム
1,760円(税込)

愛娘に向けた、家族の新しい形を説く実話。子どもの頃から自身の性別に違和感と嫌悪感を抱え、ついに女性として生きることを決意した「パパ」が、パートナーの「かーちゃん」との間に生まれた愛娘に、「ママ」として綴った感動の手紙。初の書き下ろし。

詳しくはこちら



高齢者との コミュニケーション

－認知症の人に伝わりやすい関わり方－

✓ TO DO 相手の尊厳を忘れず、丁寧な言葉で接する。



高齢期における 認知機能の変化

人の機能は生涯を通じて変化します。特に高齢期には認知機能にも変化がみられますが、すべての認知機能が一律に低下するわけではありません。加齢とともに低下しやすい認知機能としては、新しい情報を学習したり問題を解決したりする能力である「流動性知能」があります。一方、知識や経験の蓄積によって高まる「結晶性知能」は、高齢期で豊かに維持されるといわれています。

認知機能が病的に変化する原因に認知症があり、その原因となる病気はさまざまです。もの忘れは代表的な認知症の症状ですが、比較的早い時期から認知症タイプを問わず、コミュニケーションの変化がみられることが少なくありません。ことばの理解や表現、会話の流れを保つことなどに影響が生じることがあります。

認知症の人との コミュニケーション

高齢者、特に認知症の人とコミュニケーションをとるポイントは、ことばだけではなく、聴力、ワーキングメモリ(憶えながら考えるなど同時並行の処理に必要な短い記憶)などに注目した工夫です。

周囲の人が話し手の場合、短めの文で、正面からはっきりとした丁寧な口調でコミュニケーションをとります。

加齢とともに聴力は低下するため、やや大きめの声量が望ましいのですが、大きすぎると難聴の状態によっては不快感だけ残ることがあります。短めの文では文法構造がシンプルになり、話しかけられた内容を憶える量も少なくて済むため、言語障害やワーキングメモリの障害があっても、理解しやすくなります。また句で区切って話しかけることも、処理速度が低下しやすい認知症では処理するための時間を確保できて有効です。ただし、区切りが短すぎると憶えることが細切れになって逆効果になることがあります。

そして、認知症であっても人としての尊厳は変わりませんので、丁寧に話しかけることが大切です。認知症になったからといって、何もわからなくなっているわけではありません。自分のことを知りたい、自分でできることをしたいという思いがあることも報告されています。

(Yoshimura et al., 2025)

本人の意図を 汲み取ることも大切

認知症高齢者が話し手の場合、ご本人が工夫するよりも、周囲の人がご本人の意図を推測しながら確認することが大切です。ことばでの確認が難しい場合でも、ご本人の表情や態度などで意図を汲み取

れているかを確認します。何度も同じことを話す場合でも、緊急性や安全性に問題がないときは、そのまま受け止めることが大切です。また、写真や文字など視覚資料を併用することで、減衰する記憶を補うことも有効です。

〈出典〉Yoshimura, T et al, 2025, Unlocking the Value of Neuropsychological Assessments in Rehabilitation: Perspectives from Persons with Dementia and Their Caregivers, Current Therapeutic Research, 102, 100781.

話してくれたのは... 京都先端科学大学 教授 吉村 貴子さん



言語聴覚士(失語・高次脳機能障害領域認定言語聴覚士)、公認心理師、臨床神経心理士。学術博士。京都府言語聴覚士会会長、日本高次脳機能障害学会代議員、日本神経心理学会評議員。専門は認知神経心理学・言語聴覚障害学。特に認知症におけるコミュニケーション障害の理解と支援、家族支援ならびに認知神経心理学的評価の有用性と妥当性を検証する研究に取り組んでいる。

著作本紹介



『高次脳機能障害学 第4版』
阿部晶子・吉村貴子編
2025
医学書院



『認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン2022』
2022
新興医学出版社

スマート・エイジングの すすめ

✓ TO DO いつもより少し多く歩くことを心がける。



年齢を重ねることは 「衰え」ではない

スマート・エイジングは「賢く齢を加えていく」、つまり「人間として成長していく」という意味になります。世阿弥の言葉を借りれば、散ってしまった「時分の花」を振り返る後ろ向きの生き方ではなく、積極的に「まことの花」を咲かせようとする前向きな人生のあり方がスマート・エイジングです。私たちが「まことの花」を咲かせることは、**年齢を重ねるにつれて物事の見方が深まり、視野が広がることで人生が豊かになっていく**ことを意味します。

その柱となるのが、**運動（身体を動かす習慣）・認知（脳を使う習慣）・栄養（バランスの取れた食習慣）・社会性（人と積極的に関わる習慣）の4つ**です。これらを毎日の生活で実践することが、いきいきと年齢を重ねるための鍵となります。以下にこれら4つの例を挙げます。

有酸素運動をする

自立した生活が続けるには、要介護状態を防ぐことが大切です。要介護の原因の1位は脳卒中と認知症で、脳卒中をきっかけに認知症を発症する例も多いため、脳卒中の予防が最優先です。**有効な対策の筆頭が有酸素運動**です。厚生労働省の

ガイドラインでは、**高齢者は1日6,000歩以上、成人は8,000歩以上の歩行が推奨**されています。有酸素運動は疫学研究でも認知症予防効果が示されており、この点からも重要です。

推奨されている1日の歩数



筋トレをする

一般に加齢とともに、特に女性は下肢の筋力が低下します。そのため高齢期には、つまずきや転倒による骨折から入院や寝たきりに至りやすくなります。**予防には、筋トレで下肢の筋肉や体幹を鍛えることが重要**です。私が日本に初めて紹介した30分フィットネス『カーブス』は、中高年女性の特性に配慮して設計され、全国2,000店舗以上、91万人が利用しています。男性版もあります。

脳トレをする

私たちの記憶や学習、行動・感情は、**脳の前頭前野が司令塔として制御**していますが、その機能は20歳頃から低下します。「あれ・それ」な

どの言葉が増えたり、涙もろくなったりするのはそのためです。この機能を保ち、高めるのが脳トレです。**1日15分、大きな声で音読する、簡単な計算を素早く解く、手で書くことが、脳の中枢である前頭前野を中心に脳を活性化**することが科学的に明らかになっています。

年齢相応の食事をする

高齢期は低栄養による筋肉減少（サルコペニア）に注意が必要です。**適切なタンパク質摂取と筋トレを組み合わせることで、基礎代謝を維持できます**。一方、肥満や糖尿病、高血圧が常態化している人は脳卒中のリスクが高いため、糖質制限で高血糖と血糖値スパイクを抑えることが重要。**ロカボと呼ばれるゆるやかな糖質制限食が有効**です。

話してくれたのは...

東北大学特任教授、**村田アソシエイツ株式会社** 代表取締役



村田 裕之さん

06年東北大学からの依頼でスマート・エイジングのコンセプトを提唱し、09年10月東北大学スマート・エイジング国際共同研究センターの設立に参画。スマート・エイジング・カレッジを11年間主宰し、市民の健康リテラシーの向上とのべ406社との産学連携を推進してきた。高齢社会研究の第一人者として講演、新聞・雑誌への執筆も多数。

「犯罪被害者支援」という言葉を知っていますか

✓ TO DO 被害者を傷つける報道やうわさ話に加わらない。

犯罪被害者になるということ

「犯罪被害」という言葉を聞いて、一般の方々はどのような思いを抱くでしょうか。「事件で被害にあって大変な思いをしているだろうな」という感想をもつのではと想像しますが、それ以上深く考えることはあまりないのではないのでしょうか。こどもの命を奪われて犯罪被害者遺族になるまで、私もそのような一人でした。

私たちのこどもの事件発生の少し前には、東電OL殺人事件などの世間の耳目を集めた事件が発生していました。その報道は極めて酷いもので、見出しを見ただけでも部外者の私が気分を害するほどの被害者を貶めるような記事が氾濫していました。そうは思いましたが、**まさか自分たち家族がそのような状況に陥ることになるとは夢にも思いませんでした。**

犯罪被害者を取りまく環境

私たちのこどもの事件が発生したのは1997年ですが、その当時は、犯罪被害者を取り巻く環境は非常に酷いもので、殆ど何の権利もなく有用な公的支援もありませんでした。

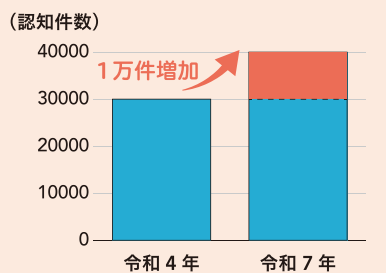
2000年に設立された「全国犯罪被害者の会(あすの会)」を中心とした活動により、2004年に犯罪被害者等基本法が制定され、その後

被害者を取り巻く環境は非常に改善しましたが、まだ十分とは言えない状況です。

地方自治体における状況

また地方自治体においては、犯罪被害者支援に特化した条例が制定されてきており、兵庫県でも2023年に条例が施行されました。兵庫県は他の都道府県に比べて条例の制定が遅れましたが、内容については最も進んだ条例が制定されたと思います。具体的な支援内容については今後さらに検討を加える必要がありますが、**県内の全ての市町と連携をして犯罪被害者支援が県民にいきわたるような体制を構築して欲しい**と思っています。

ところで兵庫県内の1年間の刑法犯認知件数は、以前に比し減少したといえども3万件を超えています。減少し続けていた認知件数も令和4年からは増加に転じており、令和7年には4万件近くまで増加しています。



重要犯罪に限っても認知件数は900件前後と決して少ない数ではありません。**人間の寿命を考えます**

と、一生のうちに、家族の誰かが犯罪被害に遭遇する確率は、一般の方々が想像するよりもかなり高いのではないのでしょうか。

犯罪被害は他人事ではありません。一般の方々には、何時、誰の上にも起こることだと理解してこの問題を考えて欲しいと思います。そして、**犯罪被害者問題を改善することは、社会のセーフティーネットの一つとして重要なこと**であると理解して頂ければと思います。

プロフィール

ひょうご被害者支援センター理事 土師 守さん

1956年神戸市生まれ、神戸大学医学部卒業。放射線科医師。

1997年5月次男を殺害され、被害者遺族となる。

2000年5月全国犯罪被害者の会(あすの会)に参加し、犯罪被害者の権利確立のための活動を行う。

2001年NPO法人ひょうご被害者支援センターの設立に設立準備メンバーとして参加。以降、役員として参加している。

ひょうご被害者支援センター

犯罪・犯罪に類する行為などで被害に遭われた方、そのご家族やご遺族を支援しています。突然被害にあうと、大きなショックを受けたり、正しい判断ができなくなったりします。自分をカラに閉じ込めないで、声に出して話すことで解決の糸口が見つかるはずです。まずはお電話でご相談ください。

詳しくはこちら



TEL

犯罪被害全般
(ひょうご被害者支援センター)

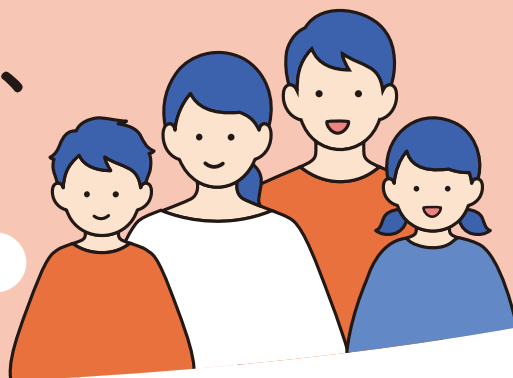
078-367-7833

性暴力ワンストップ支援センター
(ひょうご被害者ケアセンター「よりそい」)

078-367-7833

「普通の家族」って、 なんだろう

✓ TO DO 「家族とはこうあるべき」の思い込みを手放す。



家族の夏休み

「パパー！釣りやってみたーい！」
7歳と5歳の子どもたちが目を輝かせて言います。連れて行ってあげたいのですが、私もパートナーも釣り経験がほぼゼロ。どうしたものかとweb検索していると、淡路島のホテルにたどり着きました。海の目の前に位置し、道具のフルセットはもちろん、スタッフが手取り足取りサポートしてくれるといいます。さらに釣れた魚はその日の夕飯に——。少々お高めですが、「子どもたちのためなら、と一ちゃんもいっちょ頑張るか」と、夏休みの計画が決まりました。

どこにでもありそうな家族の一コマに見えるかもしれませんが、でも**私たちの家族は、少しユニークです。**

私と私の家族

私はトランスジェンダー男性で、生まれは女性、そして戸籍変更ができていないため、書類上もいまだに女性のままです。15年以上をともに歩むパートナーとは、見た目は「男女のカップル」でも、戸籍上は女性同士になるため、婚姻関係を持つことができません。子どもたちはゲイの友人から精子提供を受け、パートナーが体外受精で妊娠・出産

して生まれました。血のつながりはありませんが、愛おしい我が子であることに変わりはありません。**提供者の友人ももうひとりの「父」として子どもたちと関わっており、子どもたちは自分に二人の父親と一人の母親、そして6人の祖父母がいることを、ごく自然に理解しています。**

「認知」と「理解」の間にあるもの

LGBTQへの認知はこの10年で劇的に進んだと言えるでしょう。しかし**「認知」と「理解」は少し違います。**頭では知っていても、身近に**そういう家族がいるとはなかなか実感しにくいもの**です。私たちのような家族が、まだ珍しく映るのは仕方ないことかもしれません。しかし、**珍しいことと、認められないことは、また別の話**です。

2019年にスタートした婚姻平等を求める一斉訴訟は、おそらく2026年中に最高裁の判断が示されるでしょう。私も婚姻平等を切に願う当事者のひとりですが、決して伝統的な家族を否定したいわけではありません。**伝統的な家族は素晴らしいし、そうでない家族もまた、同じように素晴らしい。**

大切なのは、選択肢を増やすこと。**「家族とはこうあるべき」を押し付け合うのではなく、「こんな家族でありたい」をお互いが応援できる**

社会——それこそが、本当に豊かな社会ではないでしょうか。

淡路島での釣り旅行、子どもたちの笑顔が今から目に浮かびます。どんな形であれ、家族が笑っていられる社会を、私は願っています。

話してくれたのは……

株式会社
ニューキャンパス代表、
フェンシング
元女子日本代表

杉山 文野さん



1981年生まれ、トランスジェンダー男性。フェンシング元女子日本代表。JOC理事、東京レインボープライド顧問。パートナーと7歳・5歳の二児を育てながら、スポーツと人権の分野で活動を行う。著書に『元女子高生、パパになる』など。

著作本紹介

ニューキャンパスでは、違いを楽しむ場づくりを行っています。人が集まる「場所」づくりはもちろん、家族、学校、社会の中での「居場所」づくりの活動にも携わっています。それだけではなく、違いがあたりまえの社会になるように、まずは違いを正しく知ってもらうための講演や企業研修、コンサルテーション、企画提案、メディア出演を行っています。

詳しくはこちら



「元女子高生、
パパになる」
文藝春秋
1,540円(税込)

セクシュアリティの多様性尊重 理解からアクションへ



✓ TO DO 「偏見がない」で満足せず、態度で示してみる。

関学 レインボーウィーク

私が所属する関西学院大学では、毎年5月に多様なセクシュアリティの尊重を啓発するために関学レインボーウィーク(※1)を開催しています。14回目となる今年のKGRWのテーマは「Still Here Still Queer: つねに、すでに、ここに」でした。

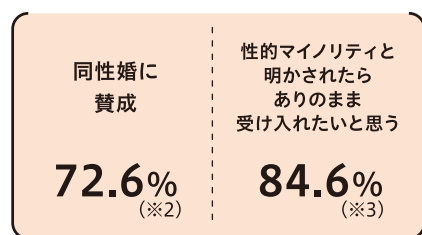


近年は日本社会でも「LGBT」という言葉の認知度も高くなってきましたし、LGBTQ+の人たちが多少は可視化されるようになってきました。ただ、これは**LGBTQ+の人たちが急に増えたからではなく、今まで声を上げられなかった状況から少しずつ、本当に少しずつですが声を上げられるようになってきた**からです。つまり、LGBTQ+の人たちは、日本社会の中に「**つねに、すでに、ここに**」**ずっといた**のです。ただ、少しずつ認知が高まり、声を上げられるになったとはいえ、残念ながらまだまだ日本社会でLGBTQ+の人たちの人権が尊重されているとはいえません。

だからこそ、関西学院大学ではKGRWを開催し続けているのです。
(※1) KGRW: <https://kgrainbowweek.com/>

拡がる理解

KGRWに限らず、近年は「神戸レインボーフェスタ」や「関西レインボーフェスタ」のように、日本の各地で多様なセクシュアリティの尊重を啓発するイベントが開催されています。きっとこの文章をお読みになっている皆さんも、LGBTQ+の人たちの人権を尊重するという主旨には賛同して下さっている方が多いのではないのでしょうか。近年の日本における調査結果でも、**同性婚賛成やLGBTQ+の人たちを受け入れたいと思う人の割合は、非常に高い値**となっています。



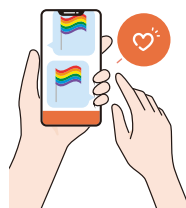
(※2) 「同性婚に関する意識調査 報告書」

(※3) 「LGBTQ+をめぐる人々の意識は?〜最新調査レポート」

理解からアクションへ

読者の皆さんも、「自分はLGBTQ+の人たちに対して偏見がない、差別をしない」と思っている人が大半だと思います。でも、心の中でそう思っ

ているだけでは、周りの人には伝わらないし、残念ながら社会は変わりません。それどころか、**何も態度や行動で示さないのは、LGBTQ+の人たちの人権が尊重されていない現状の社会構造の維持に意図せずに加担してしまっていることになってしまう**のです。そうならないように、まずはできることから行動に移していきませんか。たとえば、性の多様性を支持するSNSでの発信に好意的なアクションをしたり、不適切な発言や振る舞いには愛想笑いをしないで黙ってその場を去るなど。一人だけでは社会を変えることはできないけれど、私たち一人ひとりが**思うだけではなくできる範囲の小さなアクションを起こすことで少しずつ社会は変わっていく**、私はそう信じています。



話してくれたのは...

関西学院大学
人権教育研究室長・
人間福祉学部教員
武田 丈さん



1996年、米国テネシー大学大学院修了、Ph.D. 専門は多文化・国際ソーシャルワーク。「多様性尊重の実現」を研究テーマに、参加型調査を用いて移民・難民、近年はLGBTQ+の人たちと協働する研究に従事。2003年度より人権教育科目「セクシュアリティと人権」の代表を、2013年度より関学レインボーウィークの実行委員会を担当。

「性の多様性をめぐる意識の変化と、 これからの課題」

✓ TO DO 性のことを無理に言わせない・詮索しない。



増える学びの場

私が子どものころにはなかった、**性の多様性に関する講演会や授業が近年すごく増えてきた**と思います。

私の講演においても「直接お話が聞けてよかった」「生き方に感動した」「私も楽しく生きていきたい」など嬉しい感想を聞くこともあれば、「かわいそうな人にはかわりない」「男らしく、女らしく育てているからこんな授業必要ない」など否定的な意見もあります。

一人ひとりの思いや考えは違って当然です。でも、**その考えを他の人に押し付けるのは間違っています。**

子どもたちは授業を通して、学んでいます。**最初は、「身近にいないから関係ない」と言っていた子も、「こんな人や生き方があるんだ」と直接出会うことで意識が変化**してきました。

このように知る機会が増えたのはいいことですが、**その一方で、自分の性の悩み、性的指向、性自認などをあえて言わないといけない、といった考えや流れがあるように感じます。しかし、そんなことはありません。**

考えてみてください。例えば、男性の身体で生まれ、男性として生きる人が、「男性です」とわざわざ言いますか？異性愛者の人が「自分は、異性が好きです」とわざわざ言っています

か？私は聞いたことがありません。

男性の身体で生まれ、男性として生きること、異性を好きになるのが当たり前、ふつうと思っていませんか。**当たり前やふつうは人それぞれ違います。**

学校や職場などで、「言ってくれないとわからない」「対応できない」などと言われます。しかしそれは、学び続けることにより向上します。**本当は当人は言わなくても、周囲は知らなくても同じように生きていけたら一番いいこと**だと思います。

でも、世の中はまだまだ追いついていないし、差別や偏見があります。**悩んでいる人が「いない、わからない」から対応しなくていいではなく、いてもいなくても、困らないように変えていく必要がある**と思います。

ひとりの人として 生きるということ

例えば、いじめや差別をする人がいて、それをカッコいいと勘違いしている人たち。そんな人を増やすのではなく、「それ、おかしいやん」「それいじめ・差別やで」と気づいたり、言える人が少しずつでも増えていくことや、ネットやSNSの情報等でデマをうのみにし惑わされるのではなく、それが「デマ」だと気づけるように学び続けることが大切です。

すべての人の個性が受け入れられ、一人ひとりが大切にされる世の

中にならないと生きづらさや悩みはなくならないと思います。

LGBTQや男性、女性、そのようなカテゴリでわけるのはではなく、一人の人として認められ、尊重されることが大切です。

話してくれたのは...

Like myself

前田 良さん



1982年に兵庫県^{しおし}宍粟市に女性として生まれる。中学まで宍粟市で暮らし、高校は県外の女子高へ。パートナーと出逢い、性別を「男性」に戻して結婚する。AID（非配偶者間人工授精）により子どもを授かるが、子どもの父親として認めてもらえず、裁判をし家裁、高裁は却下。最高裁で逆転勝訴する。

お問合せ先

前田良ホームページ
「Like myself」



『パパは女子高生だった一女の子だったパパが最高裁で逆転勝訴してつかんだ家族のカタチ』
前田 良（著）、
Akimi（イラスト）、
山下 敏雅（その他）
2019年10月
明石書店



『パパは女子高生だった！～前田 良～』（28分）
有限会社博映商事
50,000円（税抜）

すべての市民が 川西市に住んでいてよかったと 思えるまちにするために

川西市の取組

市民との協働による人権教育・人権啓発に取り組んでいます。

1 川西市におけるこれまでの人権の取組

本市における人権の取組は、1974(昭和49)年から、部落問題への取組を中心に展開してきました。市民一人ひとりの人権が真に尊重され、すべての市民が川西市に住んでいてよかったと思えるまちにするために、市民との協働により人権教育・人権啓発に取り組んでいます。

これまでの主な施策・取組

- 1979(昭和54)年度 「川西市同和対策事業総合計画」、「川西市同和対策事業新総合計画」策定。
- 1991(平成3)年 「人権擁護都市」宣言。
- 1998(平成10)年 川西市子どもの人権オンブズパーソン条例を日本で初めて制定。
- 2000(平成12)年 「人権教育のための国連10年川西市行動計画」を策定。
- 2005(平成17)年 「川西市人権行政推進プラン」策定。(2010(平成22)年、2015(平成27)年、2020(令和2)年、2024(令和6)年改定。)

2 2025(令和7)年度の主な取組

①人権週間映画会

12月4日から10日の人権週間に、毎年「人権週間映画会」を実施しています。既定の啓発映画ではなく、国内で一般上映されている人間性あふれる作品を市民に提供することによって、人権について身近に感じてもらうことがねらいです。

2025(令和7)年度は、邦画「劇場版 アナウンサーたちの戦争」、洋画「パレードへようこそ」を上映し、延べ426人が参加しました。アンケートでは「人権について関心(意識)が深まった」という回答が90%以上であり、市民の人権意識の向上に繋がる主要事業となっています。



②折り鶴平和大使

公募で選ばれた折り鶴平和大使を、8月に開催される平和式典へ派遣する事業をおこなっています。昨年度は、戦後・被爆80年の節目の年ということで、10年ぶりに長崎へ2名(小学6年生・中学1年生)派遣しました。市民が平和の願いを込めて折ったリンドウ(市花)色の折り鶴を平和公園内にある「折鶴の塔」に捧げるとともに、平和祈念式典に参列しました。

派遣後には、長崎での体験を市の人権広報誌「広報じんけん」に掲載するとともに、人権週間映画会の際に活動報告会をおこないました。平和の大切さを広く市民に伝えることができる重要な取組となっています。



ふれあい サロン

クロスワードパズルに挑戦

アルファベットを順番に並べると、
何という言葉になるでしょう？

1	2		3	4	5	6
	C					F
7		8		9	G	
		10	11			
12	13		D	14		15
			16			
17		18		19	20	E
21					22	
A					H	



たてのカギ

- ① パソコンで打ったのではなく、手で書いた文字
- ② 鉛筆やリンゴなどにある固い部分
- ④ 顔の鼻の下にあり、食物を取り入れる器官
- ⑤ 焼いたイカを裂いて作ったおつまみ
- ⑥ ラッパが踏みます
- ⑧ 鳥や獣を除けるために田畑に立てられます
- ⑪ 昨日と明日の間にあります
- ⑬ ゆでてつぶしたジャガイモにパン粉をつけて揚げた料理
- ⑭ 飼い馬を入れておく小屋
- ⑮ 年下の女の兄弟
- ⑰ 起立と着席の間にします
- ⑱ 水中で主に生活し、口を大きく開ける動物
- ⑲ 屋根などに降った雨水の通り道



よこのカギ

- ① 三食とは別の時間に食べる嗜好品
- ③ キムチや鍋に使う野菜
- ⑦ 主に金でできたコイン
- ⑨ 鶏の肉のこと
- ⑩ 甘いのと渋いのがある秋から冬が旬の果物
- ⑫ 自分の名前や出身地などを相手に伝えます
- ⑬ 人を乗せるために昔から使われてきた家畜
- ⑰ 品質が悪くなっていくこと
- ⑱ 政権を握っている方は与党、では政権を握っていない方は？
- ⑲ 植物を美しく生ける日本の伝統芸能
- ⑲ 納豆や蜘蛛が引きます



7・8月号の答え

ヤメヨウデマノカクサン

クロスワード & 投稿で

P10記事掲載川西市提供

きんたくんのコースター&
ボールペン&マスコットを
プレゼント！

川西市は、清和源氏発祥の地といわれています。清和天皇のひ孫にあたる源満仲公は、川西の多田盆地に移り住み「多田院」を創建しました。のちの時代に全国で活躍した源氏の武将たちはこの満仲公の子孫になります。

読者からのお便り 7・8月号を読んで

「生成AIに恋愛相談」の記事を興味深く拝読しました。人間相手と違ってAIは否定しない安心感があるようですが、勇気や努力など人として大事なものを失ってしまうような気がします。
(神戸市 ぽんずーす)

気付かずにだれかを傷付けてるかもしれないを心に留めて行動する事の大切さを再認識しました。

(尼崎市 智真理)

「読者からのお便り」の投稿掲載者(令和8年11・12月号)とクロスワードの正解者(抽選で10名様)とに、「きんたくんのコースター&ボールペン&マスコット」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人と人とのふれあいを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※投稿掲載時はペンネームの使用も可能です。

応募方法

はがき、FAX、Eメール、HPの「きずな投稿」で受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用の場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

応募先

〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号 県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会 「きずな」ふれあいサロン係
TEL:078(242)5355/FAX:078(242)5360
Eメール:info@hyogo-jinken.or.jp

※応募者および投稿者の個人情報は管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。

締め切り

令和8年10月15日(木) 必着

「いいね」やシェアをよくするあなたへ

□「その先には、大切な人がある」 リスペクトで繋がろう

SNSによる誹謗中傷等が深刻な社会問題となっています。兵庫県では、プロスポーツチームと連携してインターネット人権侵害防止対策事業を実施しています。



X・YouTube・Instagramで 啓発動画を発信しています

プロスポーツチームのグッズの当たるキャンペーン情報も配信します。



X



YouTube



Instagram

画面の向こう側にいるのは同じ人間です
だからこそ今、思いやりのある発信を

近頃、もの忘れが気になるあなたへ

□ 認知症の「どうしよう」に寄り添う相談窓口

認知症相談 センター

認知症とともに、よりよく生きる
認知症の人でも安心して暮らせるまちをつくる
ために地域のみなさんの理解と支援が必要です。

「認知症が不安だけど受診した方がよい？」
「家族は心配しているけど本人は受診したくないと言っている・・・」
「認知症と診断を受けたけれど、これからの生活が不安」
「認知症のこと何から相談していいかわからない。」
「近所に最近元気がなくなっ心配な高齢者の方がある。」など

こんな時は「認知症相談センター」があります。

認知症相談センターの一覧は
県ホームページから確認できます。

兵庫県 認知症相談センター



誰かに聞いてほしいと感じているあなたへ

□ 兵庫県LGBT電話相談

ご本人、ご家族、ご友人、教員の方などなたでも相談できます。

電話番号 050-3637-7521

受付時間 土曜日18時～21時

相談料 無料(ただし、電話の
通話料はかかります)

内容 性的指向、性自認、
性表現、SOGIハラなど

FOLLOW ME!

兵庫県人権啓発協会の
ホームページ、SNSでも
情報発信中!



心ない言葉にモヤモヤしたことがあるあなたへ

□ ヘイトスピーチ、許さない

ヘイトスピーチは、人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねません。多様性が尊重され、不当な差別や偏見のない成熟した共生社会の実現を目指す上で、こうした言動は許されるものではありません。民族や国籍等の違いを認め、互いの人権を尊重し合う社会を共に築きましょう。

詳しくは
こちら



スポーツの力でやさしい社会に

□ ヴィッセル神戸は人権啓発活動を 応援しています!

ヴィッセル神戸は1995年に誕生し、阪神・淡路大震災からの復興とともに歩んできた兵庫県唯一のJリーグクラブです。明治安田J1百年構想リーグで優勝し、8月から開幕した2026/27シーズンでも優勝を目指して、山川哲史選手(尼崎市出身)を中心に、チーム全員が一致団結して戦っています。地域貢献活動にも積極的に取り組んでおり、街頭での人権啓発活動に毎年参加しています。人権啓発活動をこれからも応援していきます。

10月・11月のヴィッセル神戸の ホームゲーム日



ノエビアスタジアム神戸で最高の思い出を作ろう!

2026/27
シーズンの
試合日程は
こちら▼

- 10/24(土) 15:00 vs. FC町田ゼルビア
- 10/31(土) 15:00 vs. 名古屋グランパス
- 11/20(金) 19:00 vs. 水戸ホーリーホック
- 11/28(土) 15:00 vs. ジェフユナイテッド千葉



「きずな」を手にとってくださったあなたへ

□ 「読者アンケート」ご協力のお願い

「ひょうご人権ジャーナルきずな」をよりよい人権情報誌にするため、アンケートを実施しています。アンケートは協会ホームページの最新情報、下記の二次元コードから直接アンケートフォームへアクセスしてご回答ください。

回答期限 9月15日(火)～10月15日(木) 読者アンケート
※個人情報(※)は目的以外には使用しません。 入力フォーム



最新情報に掲載しています。 兵庫県人権啓発協会

回答者の中から抽選でたつの産の天然皮革を使用した「干支の革細工」をプレゼントさせていただきます。
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



ご協力をよろしくお願いします。